

平成28年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（秋季）

国際私法

1. 統一法が発展すれば国際私法の存在意義は低下、消滅する、という命題を批判せよ。
(50点)
2. 国際私法は条文数が少なく、その欠缺は条理で補充しなければならない、という見解を、例を挙げつつ批判せよ。(50点)